

東海大学紀要（体育学部）第50号発刊に寄せて

積山 和明*1

東海大学紀要（体育学部）は、本号をもって創刊第50号を迎えることができました。長きにわたって体育・スポーツ科学の発展に寄与していただきました先輩教員の皆様方、並びに今まにご活躍を賜っております現学部教員各位に、改めて敬意を表すところです。

東海大学体育学部が創設された1967年は、1964年の東京オリンピックを契機として日本の体育・スポーツへの関心が大いに高まり、単に競技力向上に止まらず、青少年育成や健康づくり、更には国際交流の分野としても注目が集まっていた頃といえます。ちょうどこの時期に拡充期を迎えた東海大学は、理想の総合大学の建設に邁進していました。そのような中、体育学部は建学の精神に基づき、社会変化に対応し、未来の扉を開く学部として誕生しました。まず、1967年には体育学科のみでスタートし、1968年に武道学科、1971年に社会体育学科を創設、1976年には大学院体育学研究科修士課程を開設いたしました。その後、時を置いて、2004年には、体育学科、競技スポーツ学科、武道学科、生涯スポーツ学科、スポーツ・レジャーマネジメント学科の5学科による、新教育課程を発足させ現在に至っています。そして2021年4月には、念願であった大学院体育学研究科博士課程後期を開設いたします。東海大学体育学部は、目標に向かって常に挑戦し、教育・研究とともに運動部の活動も両立させた、まさに学園の活力を生み出している学部といっても過言ではないと考えています。

2020年は、本来であれば東京オリンピックが開催され、世界中の注目が日本に集まるはずの

年でした。それが、全く予想もしなかったコロナウイルスの世界的感染拡大により、オリンピックは勿論のこと、多くの行事が中止、延期に追い込まれました。当然教育界にも深い影を落とし、本学部においても春学期は全て遠隔授業、秋学期はゼミナール・実技・実験・実習科目については何とか対面授業ができるようになったという活動実績にとどまり、これまでとは全く異なった学園生活を余儀なくされました。そのような状況の中でも、この度、東海大学紀要（体育学部）第50号の記念号を発刊することができました。遠隔授業にも慣れてきたとはいえ、これまで経験したことがない授業形態であり、学生も大変であったことと容易に推察できますが、教員にとりまして授業のコンテンツ作りから成績管理に至るまで、極めて多くの時間と労力を費やす中での研究活動となりました。

東海大学紀要（体育学部）第50号発刊に際しては、コロナ禍においても教員それぞれが全力を傾注していただいたものと確信しています。紀要は、体育学部の教員の研究活動の一端に触れていただける貴重な機会でもあります。是非、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。最後に、今回の編集に携わっていただきました関係各位に感謝申し上げますとともに、日本の体育・スポーツとともに歩み続ける東海大学体育学部の更なる発展に向け、皆様方の力強いご支援ご協力を心よりお願いし、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

*1 東海大学体育学部